TOP MUSEUM

東京都写真美術館ニュース eyes95

杉浦邦恵 うつくしい実験 ニューヨークとの50年

eyes TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM
NEWS MAGAZINE / 2018 Vol.95

杉浦邦恵インタヴュー

SUGIURA KUNIÉ:
Aspiring
Experiments
New York in 50 years

杉浦邦恵 うつくしい実験

ニューヨークとの50年

撮影：石原悦郎

杉浦邦恵

1942年、名古屋生まれ。お茶の水女子大学物理学科中退後、渡米。ニューヨーク近代美術館、ホイットニー美術館、ボストン美術館、東京国立近代美術館、愛知県美術館、埼玉県立近代美術館、東京都写真美術館などに作品収集。

《電気服にちなんで Ap2》黄色 2002年 黄色で調色されたゼラチン・シルバー・プリント 東京都写真美術館蔵

1963年に渡米し、67年からニューヨークを活動拠点とする杉浦邦恵は、表現の手法としての写真にいち早く注目した実験的な作品群で知られている。日本国内における初の回顧展を迎える彼女に、試みてきた挑戦の数々や、作品の制作意図などについて伺った。

— 1963年に二十歳で渡米されていますが、その当時、写真をファインアート（芸術）として制作することは、アメリカでも珍しかったのではないでしょうか？

私が入学したシカゴ・アート・インスティテュートはシカゴ美術館の附属大学だったのですが、この美術館はアメリカの中でもかなり進んでいて、すでに写真作品を収蔵し、展示もしていました。また、すぐそばにはイリノイ工科大学があって、そこにモホイ＝ナジが創設した写真部がありました。ハリー・キャラハンやアーロン・シスキンドがナジの教え子として有名な写真家ですが、私の指導教官だった2人の教授は、彼らの教え子だったんです。だから、とても特殊だったのかもしれませんが、たいへん恵まれた環境だったと思います。

— 学生時代に制作された「Cko」シリーズでは、白黒フィルムでの二重露光やカラーモンタージュ、魚眼レンズの使用など、さまざまな実験を繰り返したとのこと。自分なりの方法を模索した時期だったのですか？

過去全体を振り返ると、大学生時代だけでなく自分はプロセスを通じて新しい作品をつくることに興味があるんだと改めて思います。写真は科学の産物だから、実験しながらプロセスを壊していくことで、新しさを生み出し、次の段階へと突破できる可能性があるんじゃないかと感じました。渡米する前、日本の大学では物理学を専攻していましたから、科学系のほうが自分にはなじみやすかったというのもありますね。

《孤 #4-V2/2》1967年 発色現像方式印画 東京都写真美術館蔵

《（レントゲン）棚のインスタレーション》1994年 ゼラチン・シルバー・プリント アクリル板 金属製棚 作家蔵

《ジェームス D ワトソン Dp2》2004年 ゼラチン・シルバー・プリント 作家蔵

— 「Cko」とは、どういう意味なのでしょう？

漢字にすると孤独の「孤」になるんです。「Ko」よりも「Cko」としたほうがしっくりきたんですよね。渡米してからすぐにケネディ大統領暗殺事件があったり、しばらく英語で苦労したりといろいろありましたから、その当時の気持ちが表れていたのかもしれません。

— 大学を卒業された後、拠点をニューヨークに移されました。1972年に「ホイットニー・アニュアル」展（ホイットニー美術館、ニューヨーク）に選出された作品「セントラル・パーク 3」（1971）は、まるで抽象画のような作品です。どのように制作されたのですか？

あれはモノクロのフォトカンバスなんです。元の写真はニューヨークのセントラル・パークにある岩の一部をカメラで接写したもので、そのイメージを、感光材を塗った1.5×2mサイズのカンバスに定着させました。

— ホイットニー・アニュアルはアーティストの登竜門とされる展覧会ですね。出展されたことでまわりからの評価や環境も変わったのではないでしょうか？

出展できるのは作家1人につき1点だけでしたが、それでも反響は大きかったですね。美術館に収蔵していただいたり、ニューヨークのソーホーにできた新しい画廊で個展を開催したりすることができました。そのほかに、地方の美術館でのグループ展やアーティスト・イン・レジデンスに招待していただいたのですが、夫と離れて暮らすのがいやで、すべて断ってしまいました。たいへんもったいなことをしたと思います（笑）。

Courtesy of Taka Ishii Gallery

《飛び跳ねる D ポジティブ》1996年
調色されたゼラチン・シルバー・プリント 作家蔵

— フォトカンバスの後に、写真とペインティングを組み合わせた作品のシリーズを試みられていますね？

その頃、写真というメディアは小さな版画やドローイングのような位置づけで、絵画や彫刻よりも重要でないとみなされていたので、その認識を変えたいと思い、新しい材料に注目したのです。

— 80年代からのフォトグラム作品は、ドローイングの延長という意識で始められたのでしょうか？

ドローイングの延長というよりも、写真と絵画を結ぼうとする試みです。花をフォトグラムにしたときに、その輪郭や影のニュアンスがとても興味深かったので、自然物を材料にしたいと思ったんです。
作品をつくっていると、自分では意識していなくても、なんとなく日本の花鳥風月みたいになってしまうところがありますね。脳に蓄積されたイメージバンクみたいなものがあるんじゃないかと感じます。

— カエルやナマズを撮った作品は、生物を直接印画紙の上に置いて感光したそうですが、「The Kitten Papers（子猫の書類）」（1992）は、猫の姿はほとんど確認できませんね？

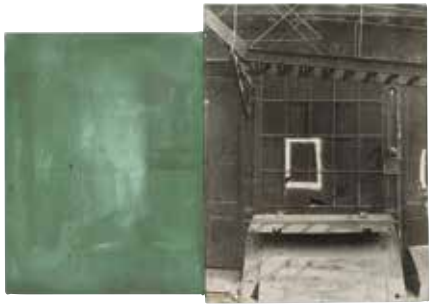
暗室の中、子猫を感光紙の上に一晩置いて、朝になってから感光しました。猫が過ごした時間が、体液などの物理的な痕跡によって記録されているわけです。写真に一瞬の記録と長い時間の積み重ねを盛り込もうという試みです。

— ニューヨーク近代美術館（MoMA）が開催してきたシリーズ展「New Photography」は、写真の最新動向を紹介する展覧会としていつも大きな注目を集めますが、1997年に参加されていますね？

「New Photography 13」に参加しました。出展したのは、花をモチーフにフォトグラムで制作した「Cut Flowers, Stacks」というシリーズでした。確かに影響はとても大きかったですね。あの展覧会の後、私から自分のことを説明しなくても、人々が「あなたは写真家だね」と言ってくれるようになりましたから。

— 90年代末から2000年代に制作された「Artists and Scientists（芸術家と科学者）」はアーティストや科学者のポートレイトをフォトグラムで撮影したシリーズですが、「after Electric Dress Ap2,yellow（電気服にちなんでAp2,黄色）」（2002）だけ、作家さんご本人ではなく、モデルを使って撮影されていますね？

あの作品は、田中敦子さんの作品「電気服」に触発されて制作したものなんです。1994年にニューヨークのグッゲンハイム美術館で「Japanese Art after 1945: Scream against the Sky（戦後日本の前衛美術）」展が開催されて、そこに出展されていました。そのあまりの美しさに、脳裏に焼きついて頭から離れなくなってしまいました。言ってみればオブセッションのようなもので、彼女の偉大さを打ち破るための、私の挑戦だったと言えるかもしれません。作品にすれば、いつもそのことばかり考えなくても済むようになるんじゃないかと。ただ、彼女は日本に住んでいたからポートレイトの撮影は難しく、あの時はモデルを使って、クリスマスツリー用のライトを巻きつけて撮ったんです。



Courtesy of Taka Ishii Gallery

《市場の前面》1978年 写真乳剤 アクリル絵具 カンヴァス 作家蔵

— 今回、日本で初めての大規模個展となりますが、どんな気持ちで臨まれていますか？

せっかくいただいた機会ですから、ベストを尽くしたいですね。自分にしかできないコミュニケーションの能力があるとしたら、それを発揮すべきだし、これまでいろいろなものをいただいて成長してきたのだから、作品を見てくださる方や次の世代にシェアしたいと思っているんです。　（2018年5月　インタビューと文　富田秋子）

《桜島B》2016年 インクジェット・プリント アクリル絵具 カンヴァス 作家蔵

杉浦邦恵　うつくしい実験　ニューヨークとの50年

SUGIURA KUNIÉ: Aspiring Experiments New York in 50 years

2F 2018.7.24｜火｜– 9.24｜月・振休｜

杉浦邦恵は1963年、20歳の時に単身渡米し、シカゴ・アート・インスティテュートで写真と出会います。留学当初、写真を専攻する生徒は杉浦をのぞいて殆どおらず、美術学校では絵画や彫刻がまだ主流という時代でした。しかし彼女は、写真の可能性にいちはやく注目し、実験的な手法によって独自の表現形式を模索していきます。魚眼レンズによる画像の歪み効果や、人物と風景のモンタージュ、ソラリゼーション、モノクロとカラー・ネガの併用など、制作のプロセスを重視した表現形式を作家は最初期から模索してきました。

1967年杉浦はニューヨークに拠点を移し、写真の伝統や因習を破ろうとする試みを本格的にすすめていきます。ポップアートをはじめとする60年代のアメリカのアート・シーンを時代背景に、アクリル絵の具やカンヴァスを作品に取り入れるなど、写真と絵画を融合させる一方、写真は光によって描かれるメディアである、という根源的な視点に立ち、植物、動物、人間へとモチーフを発展させながら、伝統的なフォトグラムの手法を独自の様式で生み出します。本展ではその50年を超える足跡をたどるとともに、杉浦の表現の先駆性と独自の世界観をとらえ、作品自体の魅力に迫ります。

｜担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第1、第3金曜日14:00より。展覧会チケット（当日消印）をご持参ください（当初の予定より日程が変更となりました。ご了承ください）。

｜関連イベント

杉浦邦恵によるレクチャー

[日時] 2018.8.4（土） 14:00–15:30
[会場] 東京都写真美術館 1階スタジオ　[定員] 50名
※当日10:00より1階総合受付にて整理券を配布。入場無料、整理番号順入場、自由席

対談シリーズ

[日時] 2018.7.27（金） 18:00–19:30
あがた森魚（ミュージシャン・映画監督）×杉浦邦恵
[定員] 50名　[会場] 東京都写真美術館 1階スタジオ

[日時] 2018.9.22（土） 14:00–15:30
椹木野衣（美術批評家・多摩美術大学教授）×杉浦邦恵
[定員] 190名　[会場] 東京都写真美術館 1階ホール
※当日10:00より1階総合受付にて整理券を配布。入場無料、整理番号順入場、自由席

＊事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

[主催] 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館　[協賛] 東京都写真美術館支援会員
[観覧料] 一般 900（720）円／学生 800（640）円／中高生・65歳以上 700（560）円 ※（ ）は20名以上の団体料金、7月26日（木）–8月31日（金）の木・金曜日18:00–21:00は学生・中高生無料／一般・65歳以上は団体料金（※各種割引の併用はできません）

TOPコレクション　たのしむ、まなぶ
イントゥ・ザ・ピクチャーズ

TOP Collection: Learning　Into the Pictures

3F 2018.5.12｜土｜－8.5｜日｜

スタンプラリー開催！
詳細はP11へ

ピカソのパン限定販売
詳細はP14へ

TOPコレクションは、東京都写真美術館の収蔵作品を紹介する展覧会です。今年のテーマは「たのしむ、まなぶ」。

「美術館」という場における学びは、学校や書物による学びとは異なる体験をもたらします。美術館の空間の空気感、壁に並ぶ作品のリズム感、実際の作品の大きさによる存在感などを全身で感じたりすることからの学びは美術館特有のものです。また、ただ作品を時代の資料として見て情報を得るというだけではなく、自分の興味にそって作品の中に写っているものをじっくり見ることで、それまで気づかなかった作品の別の一面に気づいたり、あるいは「わからないこと」を発見し、その「わからなさ」をたのしんだり、ということも美術館での「まなび」です。

本展は、当館の34,000点以上におよぶ膨大なコレクションの中から、古今・東西のすぐれた名品の数々を紹介しつつ、観客の皆様を美術館の豊かで多様な学びへと誘います。写真に詳しい方にも、そして当館を訪れるのは初めてという方にも新たな「たのしみ」と「まなび」がきっとあることでしょう。

さあ、どうぞ一緒に写真の中へ！

ロベール・ドアノー《ピカソのパン》1952年 ゼラチン・シルバー・プリント
©Atelier Robert Doisneau/Contact

出品作家

木村伊兵衛、桑原甲子雄、中平卓馬、奈良原一高、鈴木理策、植田正治、ダイアン・アーバス、ベルント＆ヒラ・ベッヒャー、アンリ・カルティエ＝ブレッソン、シンディ・シャーマン、ロベール・ドアノー、エリオット・アーウィット、リー・フリードランダー、マイナー・ホワイト、ギャリー・ウィノグランドほか、60アーティスト

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第1、第3金曜日16:00より。展覧会チケット（当日消印）をご持参ください。

関連イベント

手話通訳つきギャラリートーク

第1金曜日は上記「担当学芸員によるギャラリートーク」を手話通訳つきで行います。3階展示室入口にお集まりください。

じっくり見たり、つくったりしよう！

写真にまつわる制作を体験したり、展示室で作品について楽しく話し合ったり、一度にさまざまな体験ができるプログラムです。※作品解説ではありません。

[日時] 2018.7.28（土）、29（日） いずれも10:30－12:30
[対象] 小学生とその保護者（2人1組）
[定員] 各日10組 事前申込制、先着順
[参加費] 800円（別途、展覧会チケットが必要です）

クロマキーランド

[日時] 2018.7.7（土） 14:00－17:00
「クロマキー合成」によって、実際にそこにはないユニークな記念写真を撮影します。予約不要。どなたでもご参加いただけます。

対話型作品鑑賞会

参加者で対話を交えながら作品を鑑賞します。※作品解説ではありません。

[日時] 2018.6.28（木）、7.26（木）各日18:30より
展覧会チケット（当日消印）をご持参ください。

＊事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

[主催] 東京都 東京都写真美術館　[協賛] 凸版印刷株式会社
[観覧料] 一般 500（400）円／学生 400（320）円／中高生・65歳以上 250（200）円 ※（ ）は20名以上の団体料金、7月19日（木）－8月3日（金）の木・金曜日18:00－21:00は学生・中高生無料／一般・65歳以上は団体料金（※各種割引の併用はできません）

TOPコレクション
たのしむ、まなぶ　夢のかけら

TOP Collection: Learning
The Fragments of Dreams

3F 2018.8.11｜土・祝｜－11.4｜日｜

スタンプラリー
開催！
詳細はP11へ

ジャック・アンリ・ラルティーグ《デスピオ、アンダイエ》1927年
ゼラチン・シルバー・プリント

8月から始まるTOPコレクション第2期は、「作品」という名の夢のかけらを手がかりに、新鮮な驚きのある作品体験へと皆様を誘います。

この展覧会は、子供から大人まで、見たものや感じたことを自由に語りあって、作品の見方を深めていくことを目指しています。作品から読み取り、感じ取ることのできる数々の夢や想い、そして過去の記憶。想像力を働かせ、感覚をクリアにして、さまざまなイメージを体感してみてください。たとえば、フランスの写真家ジャック・アンリ・ラルティーグによる、ジャンプの写真。男の人がビーチボールめがけて一心に飛んでいます。ラルティーグは生涯プロの写真家ではなかったものの、幼い頃から、こうした遊び心にあふれた日常の光景をたくさん撮影しています。この作品から私たちは、彼の気持ちをどのように感じることができるでしょう？ 答えは1つとは限りません。

人物の視線、情景やドラマ、造形美、時間表現など、名作に秘められた多くの手がかりから、果てなき作品鑑賞の魅力をお楽しみください。

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2、第4金曜日16:00より。展覧会チケット（当日消印）をご持参ください。

関連イベント

詳細は決定次第ホームページでお知らせします。

＊事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

[主催] 東京都 東京都写真美術館　[協賛] 凸版印刷株式会社
[観覧料] 一般 500（400）円／学生 400（320）円／中高生・65歳以上 250（200）円 ※（ ）は20名以上の団体料金、8月16日（木）－8月31日（金）の木・金曜日18:00－21:00は学生・中高生無料／一般・65歳以上は団体料金（各種割引の併用はできません）

内藤正敏　異界出現

Naito Masatoshi: Another World Unveiled

2F 2018.5.12｜土｜－7.16｜月・祝｜

内藤は1960年代の初期作品において、化学反応で生まれる現象を接写して生命の起源や宇宙の生成の姿を捉えました。その後、80年代にかけて、主に東北地方で民間信仰の現場に取材した〈婆バクハツ！〉〈遠野物語〉など刺激的なシリーズを次々と発表しました。民俗学研究も手がけ、東北と江戸・東京、科学と宗教といった異質なテーマを交差させ、日本文化の隠された思想体系を発見する研究論文を多数発表。90年代以降は、そうした研究と自身の想像力を融合させ、修験道の霊山における空間思想を解読するシリーズ〈神々の異界〉を手がけています。本展では、50年を超える足跡をたどり、独自の世界観、生命観をご紹介します。

《お籠もりする老婆 高山稲荷》〈婆バクハツ！〉より 1969年
ゼラチン・シルバー・プリント 東京都写真美術館蔵

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2、第4金曜日14:00より。展覧会チケット（当日消印）をご持参ください。

関連イベント　トーク「内藤正敏の世界」

[日時] 2018.6.8（金）飯沢耕太郎（写真評論家）×
松岡正剛（編集工学者）
2018.6.29（金）赤坂憲雄（民俗学者・学習院大学教授）
各回18:00－19:30
[定員] 各回50名　[会場] 東京都写真美術館 1階スタジオ
※当日午前10時より1階総合受付にて整理券配布
※各回とも作家本人の出演はありません

＊事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

[主催] 東京都 東京都写真美術館／朝日新聞社
[観覧料] 一般 700（560）円／学生 600（480）円／中高生・65歳以上 500（400）円 ※（ ）は20名以上の団体料金

マジック・ランタン 光と影の映像史

The Magic Lantern: A Short History of Light and Shadow

B1F 2018.8.14|火|-10.14|日|

スタンプラリー開催!
詳細はP11へ

1

2

3

近年注目を集める、プロジェクション・マッピングやパブリック・ヴューイングなど、人々がひとつの映像を一緒に見るという行為は、いつ、どのように生まれ、我々の社会に定着するようになったのでしょうか。

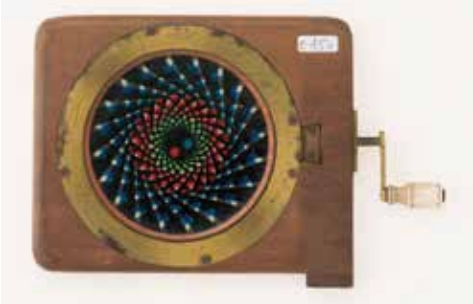
スクリーンや壁に映像を投影する「プロジェクション」という行為は、映画の発明より遡ることはるか以前に、マジック・ランタンと呼ばれる現代の映写機やプロジェクターの原型にあたる装置の発明により、世界中に広がりました。

本展では映像の歴史を、プロジェクションの歴史という視点から見直し、映像史の新たな側面を照らし出すことを試みます。

光と影がつくりだす美しく不思議な世界は、日本では、写し絵や錦影絵、幻燈という名前で古くから親しまれてきました。光と影によってもたらされる映像の歴史を、当館コレクションのマジック・ランタンや、映画の誕生以前に生まれた数々の映像装置を中心に紹介します。

さらに、現代作品を代表して、小金沢健人の最新作を初公開します。映像を軸とし、パフォーマンス、ドローイング、インスタレーションへと表現の幅を拡げ、世界から注目を集める作家の世界をお楽しみください。

[主催] 東京都 東京都写真美術館／日本経済新聞社　[協賛] 凸版印刷株式会社
[観覧料] 一般 500(400)円／学生 400(320)円／中高生・65歳以上 250(200)円 ※( )は20名以上の団体料金、8月16日(木)-8月31日(金)の木・金曜日18:00-21:00は学生・中高生無料／一般・65歳以上は団体料金（※各種割引の併用はできません）


4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

小金沢健人《速度の落書き》2008年
ヴィデオ・インスタレーション サイズ可変 作家蔵

小金沢健人 KOGANEZAWA Takehito

1974年東京都生まれ。広島在住。武蔵野美術大学映像学科卒業後ドイツに渡り、以来ベルリンを拠点に活動を続ける。映像、ドローイング、インスタレーションなど多様な表現メディアを用いた作品群を国内外で発表。東京都立川市にあるミシン工場の社員食堂跡を共同アトリエとして使用したことから名付けられた「スタジオ食堂」で活動したメンバーの一人。国内での主な個展に「Dancing In Your Head」(2004年／資生堂ギャラリー)、「あれとこれのあいだ」(2008年／神奈川県民ホールギャラリー)、「動物的」(2009年／丸亀市猪熊弦一郎現代美術館)。

1)作者不詳 マジック・ランタンのトレード・カード 19世紀 フランス リトグラフ　2)ウジェーヌ・シャルル・フランソワ・ゲラール《旅人たち #18:魔女の穴(黒い森)での朝食》1854年 フランス リトグラフ 手彩色　3)作者不詳 マジック・ランタンのトレード・カード 19世紀 フランス リトグラフ4)クロマトロープ 19世紀 制作地不明 ガラスに手彩色 金属枠 木枠5)・6)ファンタスマゴリアのスライド 1830-50年 フランス ガラスに手彩色 木枠　7)ファンタスコープ・モルテニ 1830-50年 フランス　8)ランテルヌ・フォトジェニク ジュール・ドゥボスク製 1850年以降 フランス　9)ランテルヌ・アンペリアル ルイ・オベール製 1870-80年頃 フランス　10)ランテルヌ・リシュ ラピエール製 1880年頃 フランス　11)マジック・ランタン ラピエール製 20世紀初頭 フランス　12)シネマトグラフ E.V.L 1900年頃 フランス　13)メガスコープ アンリ・ルフェーヴル製 1876年以降 フランス　14)マジック・ランタン E.P.製 1870-1890年頃 ドイツ

関連イベント

アーティストトーク
[日時] 2018.8.18(土)14:00-15:00
[出演] 小金沢健人(出品作家)
[会場] 東京都写真美術館 2階ロビー
[定員] 50名 ※入場無料、先着順

「江戸写し絵」社中旗揚げ公演「納涼江戸写し絵の夕べ」
[日時] 2018.8.24(金)19:00-20:00
[会場] 東京都写真美術館 2階ロビー
[定員] 50名 ※入場無料、先着順

マジック・ランタンをめぐるレクチャー
[日時] 2018.9.29(土)14:30-16:30[14:00開場予定]
[会場] 東京都写真美術館 1階ホール
[出演] 草原真知子(メディア文化論研究者)、
松本夏樹(映像文化史家)、岩田託子(中京大学教授)
[定員] 190名 ※当日10時より1階ホール受付にて整理券を配布。
入場無料、整理番号順入場、自由席。

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第1・第3金曜日14:00より、および、8月31日(金)18:10より、担当学芸員による展示解説を行います。展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

＊表記のない図版はすべて東京都写真美術館蔵
＊事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

愛について　アジアン・コンテンポラリー

I know something about love, asian contemporary photography

2F 2018.10.2｜火｜–11.25｜日｜

キム・インスク《息子と私》
シリーズ〈サイエソ：はざまから〉より 2008年
東京都写真美術館蔵 ©金仁淑

キム・インスク（金仁淑）
Kim Insook（韓国b.1978–）

1978年大阪生まれ。在日コリアン3世。ビジュアルアーツ専門学校写真学科を卒業、2005年韓国の漢城大学芸術大学院修了。大阪の朝鮮学校をテーマにした〈sweet hours〉（2001年–）や、在日コリアンの家族の肖像〈サイエソ：はざまから〉（2008年–）など、いくつもの文化の狭間に生きる、アイデンティティやコミュニティ、民族、家族の問題を浮き彫りにしている。主な展覧会に「ゴー・ビトゥイーンズ展：こどもを通して見る世界」（森美術館他、2014–15年）、「第16回河正雄ヤングアーティスト招聘展〈光2016〉」展（光州市立美術館、2016–17年）、「#Selfie – The people who take picture by themselves」展（SAVINA美術館他、2017–18年）など。

発展と変容が著しいアジア。現代写真・美術の世界でもアジアへの視線が熱くなっています。当館はアジアを代表する写真美術館として、これからも継続的にアジアの作品を取り上げていく予定です。今回は女性作家を中心に、変容著しい家族やセクシュアリティやジェンダーに焦点をあて、アジアの現在の一面を照射します。この展覧会は日本、中国、台湾、シンガポール、韓国、そして在日コリアンの女性アーティストの作品で構成しています。国も年齢もアーティストとしてのキャリアも異なる彼女たちの作品は、各々が高い評価を得ている「アジアン・コンテンポラリー」であるという大枠の共通点以上に、女性の価値観が様々に変容するアジアの“今”を共有しています。それぞれの現実を直視し、それぞれの“今”を思索しながら疾走する姿勢で通じています。彼女たちは何を考えているのでしょうか。それは「愛について」。

キム・オクソン（金玉善） Kim Oksun（韓国b.1967–）

1967年ソウル生まれ。韓国・済州島に住む外国人と結婚したカップルを撮った〈ハッピー・トゥゲザー〉（2000–04年）のシリーズで知られる、韓国を代表する写真家の一人。異文化との葛藤や調和、アイデンティティというテーマは、多くの作品に引き継がれている。2016年に第15回東江写真賞（東江国際写真フェスティヴァル）、2017年に第8回イルウー写真賞（大韓航空）を受賞。個展に「No Direction Home」展（ハンミ写真美術館、2011年）、「Museum of Innocence」展（Goeun写真美術館、釜山、2016年）他多数。第1回済州島ビエンナーレ（2017年）他多数。

キム・オクソン《ヒロヨとマイケル 2》シリーズ〈ハッピー・トゥギャザー〉より
2004年 東京都写真美術館蔵 ©Oksun KIM

[主催] 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞　[協賛] 東京都写真美術館支援会員／凸版印刷株式会社
[観覧料] 一般 800（640）円／学生 700（560）円／中高生・65歳以上 600（480）円 ※（ ）は20名以上の団体料金

チェン・ズ《蜜蜂 #065-01》シリーズ〈蜜蜂〉より 2010年

チェン・ズ（陳哲） Chen Zhe（中国b.1989–）

1989年中国・北京生まれ。2011年アート・センター・カレッジ・オブ・デザイン（ロサンジェルス）卒業（写真専攻）。自傷行為をテーマにした作品〈Bees & The Bearable〉で第3回三影堂撮影大賞受賞（2011年）、連洲写真フェスティヴァル年度賞（2012年）、Xitek・ニュー・タレント・アワード（2015年）、また、2016年には同名の写真集でカッセル・フォトブック・フェスティヴァルで最高賞を受賞するなど、現在、最も注目されている中国の女性アーティストである。現在進行形の最新作〈Towards Evening: Six Chapters〉では日記や手紙を素材に、言葉とイメージの問題をテーマにしている。

ホウ・ルル・シュウズ《王姜宜鳳 ワンジャン・イーフォン 01》シリーズ〈エピソード3：故郷はどこにある？（建業新村）〉より 2010–17年 作家蔵 ©Lulu Shur-Tzy Hou

ホウ・ルル・シュウズ（侯淑姿）
Hou Lulu Shur-Tzy（台湾b.1962–）

1962年台湾・嘉義生まれ。自分自身を被写体に女性に向けられる視線や期待される役割について風刺した〈窺〉（1996年）、台湾の紡績工場で働く女性たちを取材した〈青春編織曲〉（1997年）など、最初期の作品からジェンダーやアイデンティティ、社会階級や民族をテーマに制作している。特に2004年から始められた〈亞洲新娘之歌〉（2005年、2008年、2009年）は、ヴェトナムやカンボジア、タイやインドネシアから台湾に嫁いだ外国人花嫁をテーマに、写真と言葉で綴った三部作として彼女の代表作となっている。欧米、日本、香港等の展覧会にも招聘されている。

《8:33》2010年 シリーズ〈ありのまま〉より 2010年 作家蔵 ©Geraldine Kang

ジェラルディン・カン Geraldine Kang（シンガポールb.1988–）

1988年シンガポール生まれ。現在、ニューヨークのパーソンズ・スクール・オブ・デザイン大学院に在学。ファミリー・ポートレイト〈ありのまま〉（2010–11年）で注目を浴び、卒業後もシンガポール、ドイツ、オランダ、ニューヨークなどのグループ展に招聘される。主な作品に、自分と祖母の関係とその死を描いた〈ふたつの寝室〉（2010–15年）、セラングーン川の夜の工事現場をテーマにした〈As quietly as rhythms go〉（2014年）、53人のアーティストやキュレーターとイメージについて共同制作した写真集『Left to Right』（2016年）、シンガポールのゴミ収集や移民労働者に焦点をあてた〈How do you sleep at night?〉（2017年–）他。

須藤絢乃 Sudo Ayano（日本b.1986–）

1986年大阪生まれ。2011年京都市立芸術大学大学院修士課程修了。在学中にフランス国立高等美術学校留学。2009年京都市立芸術大学作品展市長賞受賞。ミオ写真奨励賞2010にて、森村泰昌より審査員特別賞受賞。〈幻影 Gespenster〉でキヤノン写真新世紀2014グランプリ受賞。主な作品に、性別にとらわれない理想の姿に変装した自身や友人を写した〈Metamorphose〉（2011年–）、実在する行方不明の女の子に扮して撮影したセルフポートレイト〈幻影　Gespenster〉（2013–14年）、他人が自分のように見えてくる現象をモチーフにした〈面影　Autoscopy〉（2015年）などがある。1839當代藝廊（台湾、2011年）にて初個展開催後、国内外の展覧会やアートフェアに出展。主な展覧会に「写真都市　—ウィリアム・クラインと22世紀を生きる写真家たち」展（21_21 design sight、東京、2017年）他多数。

作家蔵 ©Ayano Sudo / 須藤絢乃
Courtesy of MEM, Tokyo

関連イベント

【講演会】キム・インスク（出品作家）
[日時] 2018.11.17（土） 15:30–17:00

【対談】小勝禮子（近現代美術史・美術批評）×笠原美智子（石橋財団ブリヂストン美術館）
[日時] 2018.10.13（土） 15:30–17:00

講演会・対談とも
[会場] 東京都写真美術館 1階スタジオ
[定員] 各50名（整理番号順入場／自由席）
[入場料] 無料／要入場整理券
※当日10時より1階総合受付にて整理券配布

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2、第4金曜日14:00より。展覧会チケット（当日消印）をご持参ください。

＊事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

世界報道写真展2018

World Press Photo 2018

B1F 2018.6.9｜土｜- 8.5｜日｜

スポットニュースの部 単写真 1位
世界報道写真大賞 ロナルド・シュミット

ベネズエラ、AFP通信、2017年5月3日
ベネズエラのカラカスで、ニコラス・マドゥロ大統領への抗議行動中に機動隊との激しい衝突が起こり、火だるまになるデモ参加者。

＊事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

世界中の約100会場で開催される世界最大規模の写真展「世界報道写真展」は今年で61回目を迎えます。今回は125の国と地域から4,548人のフォトグラファーが参加し、73,044点の応募がありました。本展では、大賞を受賞したロナルド・シュミット氏をはじめ、8部門から、22カ国42人の全受賞者の作品を紹介します。

｜関連イベント

フォトドキュメンタリー・ワークショップ

2018.7.14（土）-16（月・祝） 10:00-18:00
3日間連続（主催：東京都写真美術館、共催：朝日新聞社）
[講師] Q.サカマキ（写真家、「世界報道写真展2007」受賞者）、
外山俊樹（朝日新聞社映像報道部）
[定員] 20名 事前申込制 [参加費] 20,000円
※応募方法など詳細は当館ホームページをごらんください

人道危機の現場で、人々に寄り添うこと

国際的な医療人道援助団体「国境なき医師団」の現地で活動するスタッフが、フォトジャーナリストを迎えてトークを行います。
2018.6.30（土）安田菜津紀 14:00-15:00／渋谷敦志 16:00-17:00
[定員] 各回50名 [会場] 東京都写真美術館 1階スタジオ
本イベントの参加には「世界報道写真展2018」展覧会チケットと整理券（当日10:00より1階総合受付にて配布）が必要です。

[主催] 朝日新聞社、特定非営利活動法人 国境なき医師団日本
詳細は世界報道写真展2018公式ホームページ
http://www.asahi.com/event/wpphをごらんください

[主催] 世界報道写真財団／朝日新聞社 [共催] 東京都写真美術館 [後援] オランダ王国大使館／公益社団法人日本写真協会／公益社団法人日本写真家協会／全日本写真連盟 [協賛] キヤノンマーケティングジャパン株式会社／ゲッティイメージズジャパン株式会社 [協力] 特定非営利活動法人 国境なき医師団日本
[観覧料] 一般 800（640）円／学生 600（480）円／中高生・65歳以上 400（320）円 ※（ ）は20名以上の団体料金

「たのしむ、もらう TOPスタンプラリー」好評開催中！

TOPコレクション たのしむ、まなぶ「イントゥ・ザ・ピクチャーズ」（本誌5P）、「夢のかけら」（6P）、「マジック・ランタン」（7～8P）の3展をご鑑賞の方に、すてきなTOPオリジナルグッズがもらえるスタンプラリーを開催中です。スタンプカードは、各展示室にご入室の際に、係員がお渡ししています。

カードは5種から選べます。

スタンプカード配布期間
2018年10月14日（日）まで
詳細はこちら▼

表面　裏面

夏到来！木・金の夜は、美術館でゆっくりと過ごしませんか。

7月19日（木）～8月31日（金）の木・金曜日は、21:00まで開館します（入館は20:30まで）。さらに、18:00-21:00は、各展覧会が、学生・中高生は無料（学生証を提示）、一般・65歳以上は団体料金でご鑑賞いただけます（「世界報道写真展2018」を除く。チケット販売は20:30まで）。

期間中は、ロビーコンサートや、江戸写し絵の上演会（本誌7～8P参照）などイベントも開催します。詳細は当館ホームページをごらんください。

1F HALL / 上映

最新の上映スケジュールはこちら▶

1F『暗殺のオペラ』

イタリアの巨匠ベルナルド・ベルトルッチ監督の長編4作目にあたる1970年製作の映画。ラテンアメリカ文学の最高峰ホルヘ・ルイス・ボルヘスによる『伝奇集』の一編「裏切り者と英雄のテーマ」を原作に、設定を1960年代の北イタリアの架空の町に移し替え36年のファシズムの勃興期に視点を当てる。この作品のあとベルトルッチは『暗殺の森』（70年）、『ラストタンゴ・イン・パリ』（72年）、『1900年』（76年）と立て続けにヒット作を作り上げることになる。日本での初公開は1979年。今回はデジタル・リマスター版での初上映となる。

[上映期間] 2018.7.21（土）-8.10（金） [休映日] 2018.7.23（月）、7.30（月）、8.6（月）
[上映時間] 未定
[料金] 一般1,800円／学生1,500円／シニア・中学生以下・障がい者手帳をお持ちの方1,100円 ※当日一般料金について各種割引あり

© Licensed by COMPASS FILM SRL – Rome – Italy. All Rights reserved.

〈お問い合わせ先〉
コピアポア・フィルム 080-7005-5233
映画公式サイト
strategiadelragno2018.com

1F『返還交渉人　いつか、沖縄を取り戻す』

沖縄返還に東奔西走した外務官僚の活躍・苦悩が、今、初めて蘇る。
2010年の外務省の“密約問題”調査により、72年の沖縄返還当時の外交資料がほぼ全て公開された。資料を読み解くと、対米交渉・対沖縄折衝の両面で1人の外交官が大きな役割を担ってきた事が初めてわかった。その男の名は、千葉一夫。「鬼の千葉なくして沖縄返還なし」と称された伝説の外交官である。非公開資料や遺族への丹念な取材から掘り起こした宮川徹志の『僕は沖縄を取り戻したい異色の外交官・千葉一夫』（岩波書店刊）を原案に、昭和史のハイライトの一つ、沖縄返還交渉の舞台裏を初めて描く、骨太の“社会派エンターテインメント映画”。
出演：井浦新、戸田菜穂、佐野史郎、大杉漣、石橋蓮司

©NHK

〈お問い合わせ先〉
太秦株式会社 Tel 03-5367-6073
映画公式サイト www.henkan-movie.com

[上映期間] 2018.8.11（土・祝）- 8.31（金） [休映日] 2018.8.13（月）、8.20（月）、8.27（月） [上映時間] 13:30 / 15:50
[料金] 当日券 一般1,800円、学生1,500円、シニア・中学生以下・障がい者手帳をお持ちの方1,100円 前売券1,300円
※当日一般料金について各種割引あり

各種割引	以下の方は当日料金が割引になります。 当館パスポート会員証提示、当館での展覧会・映画の半券提示、三越カード・伊勢丹カード・アトレビュー Suicaカード提示、（公財）東京都歴史文化財団が管理する施設の友の会会員証・年間パスポート提示 ※上映によって割引料金が異なります。詳細はお問い合わせください。

事業内容は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

駅直結アクセスマップ　雨の日も、暑い日も、快適にご来館ください

恵比寿駅から当館まで、お天気に左右されず、階段を使わずに、どなたでも安心してご来館いただける道順をマップにしました。当館もしくは、恵比寿ガーデンプレイス総合インフォメーション（03-5423-7111、10:00～20:00）でお渡しします。当館ホームページからもダウンロードできます。「トップページ」→「アクセス」のページへ

マップはこちら▶

支援会員

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、
次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

《特別賛助会員》
キヤノン(株)
(株)資生堂
全日本空輸(株)
(株)ニコン

《賛助会員》
キヤノンマーケティングジャパン(株)
ゲッティイメージズジャパン(株)
大日本印刷(株)
東急建設(株)
凸版印刷(株)
富士フイルム(株)
(株)リコー

《特別支援会員》
アサヒグループホールディングス(株)
サッポロ不動産開発(株)
サッポロホールディングス(株)
(株)パラゴン

《支援会員》
(株)I&S BBDO
あいおいニッセイ同和損害保険(株)
アオイネオン(株)
(株)AOI Pro.
(株)アサツー ディ・ケイ
旭化成(株)
朝日新聞社
(株)朝日新聞出版
朝日生命保険(相)
アスクル(株)
(有)アスペン/POLARIS
(株)アマナ
(株)岩波書店
ウェスティンホテル東京
(株)潮出版社
(株)栄光社
(株)エージーピー
(株)エスジー
(株)ADKアーツ
(株)NHKアート
NHK営業サービス(株)
(株)NHKエデュケーショナル
(株)NHKエンタープライズ
(株)NHKグローバルメディアサービス
(株)NHK出版
(株)NHKビジネスクリエイト
(株)NHKメディアテクノロジー
エプソン販売(株)
エルメス財団
オリックス(株)
オリンパス(株)
(株)オンワードホールディングス
花王(株)
鹿島建設(株)
(株)KADOKAWA
カトーレック(株)
神奈川新聞社
(株)かんぽ生命保険
(株)キクチ科学研究所
(株)キタムラ
キッコーマン(株)
(株)紀伊國屋書店
ギャラリー小柳
共同印刷(株)
(一社)共同通信社
空港施設(株)
(株)久米設計
グローリー(株)
ケンコー/トキナー/スリック
興亜硝子(株)
(株)弘亜社
(株)廣済堂
(株)講談社
(株)光文社
(株)国書刊行会
(株)コスモスインターナショナル
(株)コーセー
コダック(同)
コダックアラリスジャパン(株)
(株)コバヤシ
小山登美夫ギャラリー(株)
(株)ザ・アール
三機工業(株)
産経新聞社
サントリーホールディングス(株)
(株)サンライズ
(株)ジェイアール東日本企画
JSR(株)
JXTGホールディングス(株)
(株)JTB
ジェイティービー印刷(株)
(株)シグマ
(株)実業之日本社
信濃毎日新聞社
清水建設(株)
(株)写真弘社
写真の学校/東京写真学園
シャネル(株)
(株)集英社
(株)主婦と生活社
(株)小学館
城西国際大学メディア学部
松竹(株)
信越化学工業(株)
(株)新潮社
(株)スタジオアリス
(株)スタジオエムジー
(株)スタジオジブリ
スターツ出版(株)
(株)SUBARU
住友化学(株)
住友生命保険(相)
(株)生活の友社
セイコーホールディングス(株)
成美製版(株)
積水ハウス(株)
双日(株)
ソニー(株)
損害保険ジャパン日本興亜(株)
第一生命保険(株)
第一法規(株)
(株)ダイケンビルサービス
台新國際商業銀行
大成建設(株)
(株)大丸松坂屋百貨店
大和証券(株)
(有)タカ・イシイギャラリー
高砂熱学工業(株)
(株)髙島屋
(株)宝島社
(株)竹中工務店
玉川大学芸術学部
(株)タムロン
(株)丹青社
千葉商科大学政策情報学部
(株)中央公論新社
中外製薬(株)
帝人(株)
(株)TBSテレビ
デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム(株)
(株)テレビ朝日
(株)テレビ東京
電源開発(株)
(株)電通
東亜建設工業(株)
東映(株)
東京海上日動火災保険(株)
東京急行電鉄(株)
東京工芸大学
東京新聞・中日新聞社
(株)東京スタデオ
東京造形大学
東京綜合写真専門学校
東京地下鉄(株)
東京テアトル(株)
東京都競馬(株)
(株)東京ドーム
(株)東京ニュース通信社
(学)専門学校 東京ビジュアルアーツ
(株)東京美術倶楽部
東京メトロポリタンテレビジョン(株)
(株)東芝
東宝(株)
(株)東北新社
(株)東洋経済新報社
(株)トキワ
(株)徳間書店
戸田建設(株)
トヨタ自動車(株)
(株)トロンマネージメント
(株)ニコンイメージングジャパン
日油(株)
日活(株)
(株)日経BP
日光ケミカルズ(株)
日産自動車(株)
(株)日本カメラ社
日本空港ビルデング(株)
日本経済新聞社
(株)日本廣告社
(公社)日本広告写真家協会
日本コルマー(株)
(株)日本色材工業研究所
日本写真印刷コミュニケーションズ(株)
(公社)日本写真家協会
(公社)日本写真協会
日本写真芸術専門学校
(一社)日本写真文化協会
日本生命保険(相)
日本大学芸術学部
日本たばこ産業(株)
日本テレビ放送網(株)
(株)ニッポン放送
日本ロレックス(株)
(株)ニューアートディフュージョン
野村證券(株)
(株)博報堂
(株)博報堂DYメディアパートナーズ
(株)博報堂プロダクツ
(株)ハースト婦人画報社
(株)ハーツ
パナソニック(株)
パリ ミキ
ぴあ(株)
ビービーメディア(株)
北海道 写真の町東川町
東日本旅客鉄道(株)
光写真印刷(株)
(株)ピクトリコ
(株)美術出版社
(株)ビックカメラ
(株)ビデオプロモーション
(株)ピラミッドフィルム
(株)ファーストリテイリング
(株)フェドラ
(株)フォトメディア
(株)フジテレビジョン
(株)プラザクリエイト
(株)プリンスホテル
(株)フレームマン
(株)文化工房
(株)文藝春秋
ベルボン(株)
北海道新聞社
(株)ホテルオークラ東京
(株)堀内カラー
本田技研工業(株)
毎日新聞社
(株)マガジンハウス
丸善(株)
マルミ光機(株)
(株)マンダム
(株)みずほ銀行
三井住友海上火災保険(株)
三井倉庫ホールディングス(株)
三井不動産(株)
(株)三越伊勢丹 三越恵比寿店
三菱地所(株)
三菱製紙(株)
三菱倉庫(株)
三菱電機(株)
三菱UFJ信託銀行(株)
(株)ミルボン
武蔵大学
明治安田生命保険(相)
森ビル(株)
ヤマトグローバルロジスティクスジャパン(株)
(株)吉野工業所
(株)ヨドバシカメラ
読売新聞社
ライオン(株)
ライカカメラジャパン(株)
リコーイメージング(株)
リシュモン ジャパン(株)モンブラン
(株)良品計画
(株)ロボット
(株)ワコウ・ワークス・オブ・アート
(株)ワコール

(株)=株式会社、(相)=相互会社、(有)=有限会社、(学)=学校法人、(公社)=公益社団法人、(同)=合同会社、(一社)=一般社団法人

(平成30年5月現在・五十音順)

2F SHOP
ミュージアム・ショップ

NADiff BAITEN

展覧会関連書籍はもちろん、季節のグッズも充実のミュージアムショップ。フィルムパッケージのロゴやレンズのシャッタースピード・絞り値の目盛り、カメラの機種表示などをデザインにあしらった、カメラ好きにとってはたまらないTシャツも人気です!

EXTENDED PHOTOGRAPHIC MATERIAL Tシャツ
(サイズ:XS〜XL) 各6,264円(価格はすべて税込)

詳細ページはこちら▼

営業時間/10:00-18:00(木・金は20:00まで ※7.19-8.31の木・金は21:00まで)
TEL/03-6447-7684
定休日/毎週月曜日(そのほか美術館の休館日に準じます)

1F CAFE
カフェ

MAISON ICHI

BOULANGER・PATISSIER・TRAITEUR・CHARCUTIER

LUNCH MENU(11:30-15:00)

本日のキッシュ(自家製パン付き)	1,080円
冷製ローストビーフのプレート	1,296円
季節のスープとデリプレート(自家製パン付き)	1,296円

詳細ページはこちら▼

自家製パン、ドリンクはお持ち帰りできます
〈展覧会関連商品 ピカソのパン 538円〉キッシュ各種 538円
自家製サンド 480円〜 タルト各種 430円
スペルト小麦の田舎パン 1/4サイズ 430円 ホール1,620円
コーヒー 540円/ティー 540円 ジュース・アルコール類もあります。
メニューは予告なく変更される場合があります。 (価格はすべて税込)

営業時間/10:00-19:00(木・金は20:00まで ※7.19-8.31の木・金は21:00まで)
TEL/03-6277-3862 定休日/毎週月曜日(そのほか美術館の休館日に準じます)

SCHEDULE / スケジュール

展覧会・イベント・上映の最新情報は、
topmuseum.jpまたはこちらへ ▶

	3F	2F	B1F	1F
2018 6	TOPコレクション たのしむ、まなぶ イントゥ・ザ・ピクチャーズ (収) 5.12(土)–8.5(日)	内藤正敏 異界出現 (収) 5.12(土)–7.16(月・祝)	世界報道写真展2018 6.9(土)–8.5(日)	
7		杉浦邦恵 うつくしい実験 ニューヨークとの50年 (企) 7.24(火)–9.24(月・振休)		『暗殺のオペラ』 7.21(土)–8.10(金)
8	TOPコレクション たのしむ、まなぶ 夢のかけら (収) 8.11(土・祝)–11.4(日)		マジック・ランタン 光と影の映像史 (収) 8.14(火)–10.14(日)	『返還交渉人 いつか、沖縄を取り戻す』 8.11(土・祝)–8.31(金)
9				
10		愛について アジアン・コンテンポラリー (企) 10.2(火)–11.25(日)		
11	建築×写真(仮称) (収) 11.10(土)–2019.1.27(日)			

(収)「ぐるっとパス 2018」対象の展覧会　「ぐるっとパス 2018」の詳細はこちら▶

東京都写真美術館　年間パスポート「TOP MUSEUM PASSPORT 2018」発売中

当館の展覧会を無料または割引でご観覧いただけるお得なパスポートです。

販売価格：3,240円(税込) 有効期間：2018年4月1日(日)より2019年3月31日(日)
販売場所：当館1階総合受付

スケジュール内の(収)は無料、(企)は4回まで無料、その他は割引料金となります。特典等の詳細は、当館ホームページのご利用案内よりご確認ください。

割引料金について

割引対象

展覧会を割引料金にてご観覧いただけます

1.20名以上の団体のお客様　観覧料が2割引
2.各種会員の方　観覧料が2割引
- □アトレビューSuicaカード※2018年7月2日よりJRE CARDに移行
- □MIカード(三越伊勢丹グループのクレジットカード)
- □ウエルカムカード(訪日外国人向けの割引カード)
- □当館映画鑑賞券提示者
- □財団他館友の会、年間パスポート会員
- □JR東日本「大人の休日倶楽部」カード

3.親子ふれあいデー(毎月第3土曜日と引き続く日曜日が対象)
観覧料が5割引
- □都民で18歳未満のお子様を連れたご家族が対象です。
  ※詳しくはお問い合わせください。

無料対象

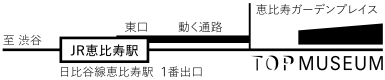
展覧会を無料でご観覧いただけます

1.□小学生以下
- □障がい者手帳提示者及びその介護者(2名まで)
- □被爆者手帳提示者及びその介護者(2名まで)
- □愛の手帳・療育手帳提示者及びその介護者(2名まで)
- □精神障害者福祉手帳提示者及びその介護者(2名まで)
- □東京都内在住・在学の中学生

※教育活動(スクールプログラムなど)で当館をご観覧希望の生徒と引率者は事前申告が必要です。
当館までお問い合わせください。

2.シルバーデー(毎月第3水曜日)
- □65歳以上の方　※証明できるものの提示が必要です

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM



JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099　topmuseum.jp

開館時間　10:00-18:00(木・金は20:00まで)。ただし、7月19日(木)-8月31日(金)の木・金曜日は21:00まで開館。入館は閉館の30分前まで。
休 館 日　毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は開館、翌平日休館)。ただし、10月1日(月)都民の日は開館します。

東京都写真美術館ニュース「アイズ18」95号　□発行日：2018年6月7日／企画・編集：東京都写真美術館事業企画課普及係　□印刷・製本：株式会社公栄社　□発行：公益財団法人東京都歴史文化財団　東京都写真美術館©2018

□本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。

※本誌編集ページに掲載されている観覧料は、原則として消費税込みの価格です。事業内容は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

Tokyo Tokyo Road to FESTIVAL